

コーポレートベンチャーキャピタルファンド
「阪急阪神イノベーションパートナーズ投資事業有限責任組合」が
自律移動型業務 DX ロボットを開発・販売する「ugo」に出資しました



自律移動型業務 DX ロボット「ugo」ラインナップ

阪急阪神ホールディングスが 2021 年 4 月に設立したコーポレートベンチャーキャピタルファンド「阪急阪神イノベーションパートナーズ投資事業有限責任組合（以下「本ファンド）」が、「ugo（ユーゴー）株式会社」に出資しましたのでお知らせします。

ugo 社は、「人とロボティクスの融合で、新しい社会システムを構築し、新しい価値観を創造する」ことを目指し、自律移動型業務 DX ロボット「ugo」を開発・販売しています。また、ロボット統合管理プラットフォーム「ugo Platform」により、業務の高度な自動化・効率化と、誰もがスマートフォンのように簡単にロボットを使いこなすことができる仕組みを両立しており、「点検」「案内」「警備」「防犯」の領域で、ロボットを活用した業務 DX ソリューションを提供しています。

当社グループでは、ugo 社の警備 DX ソリューションを導入し、ビルの警備業務の省人化・コスト低減等を進めています。この度の出資を機に ugo 社との連携をさらに深めていくことで、各事業の特性に応じたプロダクトの改良などを推し進め、労働力不足等の課題解決や、コスト低減・労働環境の改善・業務の標準化等に取り組んでまいります。

当社グループでは、これからも本ファンドからの出資等を通じて、スタートアップ企業をはじめとする外部の優れた知見や先端技術を取り入れ、当社グループとの事業シナジーの創出や新しい事業の創造を推進してまいります。

以上

ご参考

■ ugo株式会社の概要

所在地	東京都千代田区東神田 1-7-8
代表者	松井 健 (まつい けん)
設立日	2018年2月20日
事業内容	自律移動型業務DXロボット「ugo」及びロボット統合管理プラットフォーム「ugo Platform」の開発・販売
特徴	自律移動型業務DXロボット「ugo」を日本国内で開発・製造し、販売しています。「ugo」は、業務内容や現場の状況に柔軟に対応できるラインナップと拡張性を有し、遠隔操作と自動化のハイブリッドな運用で、幅広い業務において「人とロボットの協働」を実現します。 また、ロボット統合管理プラットフォーム「ugo Platform」により、ロボットの設定・操作・管理を簡単に行うことができるため、現場業務の自動化・効率化を強力に推進します。

■ 阪急阪神イノベーションパートナーズ投資事業有限責任組合の概要

ファンド名称	阪急阪神イノベーションパートナーズ投資事業有限責任組合
ファンド規模	30億円
設立日	2021年4月1日
運用期間	10年
運営会社	SBI インベストメント株式会社
主な投資領域	<input type="checkbox"/> 当社グループのDXプロジェクトに付随するもの <input type="checkbox"/> 観光・インバウンドに付随するもの <input type="checkbox"/> 新たなコンテンツ（エンタメ・旅行等）の開発に寄与するもの <input type="checkbox"/> 生産性向上（業務効率化）に寄与するもの <input type="checkbox"/> 中長期を見据えた新たな事業機会を開拓するもの <input checked="" type="checkbox"/> ヘルスケア・ウェルビーイング <input checked="" type="checkbox"/> 生活関連サービス （当社グループが現時点で手掛けていない生活に関わるサービス） <input checked="" type="checkbox"/> SDGs・沿線価値向上 （沿線エリアにおける消費・移住・移動・雇用等の創出を通じた人口減少・高齢化対策、地域経済活性化等につながるサービス）

阪急阪神ホールディングス株式会社

取締役執行役員 上田 靖（うえだ やすし）

AI とロボットが融合した AI ロボティクスの市場は、AI 技術の急速な発展とロボット本体のハードウェア技術の進展により、2030 年に国内で 2.5 兆円規模に成長する予測があるなど、今後、フィジカル AI ロボットが急速に普及していくことが期待されています。

当社グループにおいても、この度の出資を機に、ugo 社との協業による各事業の課題解決をより一層推し進めてまいります。また、AI ロボティクス領域の進展により、人とロボットが共生する社会の到来が示唆されており、ugo 社との協業を通じて同領域での知見・ノウハウを高めることで、当社グループのステークホルダーに新たな価値・ソリューションを開発・提供していくことも目指していきたいと考えています。

【ニュースリリース配付先】 青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ